

商店街をみんなで盛り上げよう

—『名古屋笠寺まちづくりの会 かんてらmonzen亭』—



愛知県名古屋市南区の笠寺観音商店街。この商店街のなかに、商店街を盛り上げるための活動がギュッと詰まったお店「もんぜん亭」があります。しとしと雨が降る日、お店にお邪魔し、おいしいコーヒーをいただきながら「名古屋笠寺まちづくりの会 かんてらmonzen亭」のメンバー、青山知弘さんにお話をうかがいました。

「小京都のような街並み」

まちの交流スペース「もんぜん亭」がある笠寺観音商店街は、名鉄「本笠寺」下車すぐのところにあります。旧東海道沿い1250mにわたって東西にのび、シンボルはなんといっても「笠寺観音」こと笠覆寺。縁結びにご利益があるといわれ、この日も雨の中お参りに来ているカップルの姿もありました。昭和30～40年代には人でごった返し、大いに賑わっていた商店街も次第に衰退。毎年2～3軒が店主の高齢化のために閉店し、新規参入は乏しい状態です。右肩下がりの状態であった商店街の活性化のために活動しているのが、青山さんら有志のメンバーで作る「かんてらmonzen亭」です。

地元の有志10名からスタート

活動開始は2007年5月。発足のきっかけは、青山さんと笠寺観音商店街組合の理事長・伊藤さんとの出会いでした。青山さんは、仕事の関係で2005年から06年までの2年間、東京赴任を経験。そこでの仕事内容は全国のまちづくり活動の支援事業を行うことでした。仕事ではまちづくりを手伝う側であった青山さんでしたが、「今度は自分がまちづくり活動をする側になってみたい」と、活動を決意。赴任期間を終え、名古屋で魅力ある街を探そうと笠寺観音商店街と出

会い、商店街組合の理事長である伊藤さんに声をかけました。伊藤さんはふたつ返事で提案を快諾。お二人が発起人となり、商店街の更なる活性化のために活動をスタートさせました。初めての活動は、青山さんと伊藤さんが声を掛けて集まった有志10名ほどとともに、商店街にあった空き店舗のショーウィンドウを、アートギャラリーとして改装することでした。

「メンバーのやりたいことや夢を、みんなで実現しよう!」

名古屋笠寺まちづくりの会の活動は多岐にわたります。お茶を飲みながら、みんなで懐かしい歌をうたう「歌声きっさ」、街中みつばちの巣箱を置き、はちみつを採集する「みつばちプロジェクト」、古着を使ってバッグなどを作るリメイク教室の「かもん教室」などなど。

活動の幅が広いのは、メンバーがやりたいこと、興味を持ったことをみんなの力でなんでもやってみるから。今までも「新聞を自分たちで書きたい」と言えば、笠寺商店街の情報を中心に、生活情報をまとめた「かんのん新聞」を毎月発刊。またあるメンバーが「本を出版するのが夢だった」と言えば、笠寺の歴史をまとめた本も制作・出版しました。「笠寺古本通り計画」もその一つ。この取り組みでは、地域の人から古本を寄付してもらいます。それを商店に設置した書棚に置

き、お客さんが自由に閲覧できる状態にし、本が気に入ればワンコインで買うこともできるというもの。この活動から「古本屋をするのが夢だった」という青年が、笠寺商店街に古本屋を開き、今では伏見の地下街に店舗を構えています。

「活動そのものが楽しい」

まちづくりというと、そのまちへの強い思い入れのある人だけが参加するイメージがあるかもしれませんが、しかし、青山さんはそうではなくてもよいと考えています。「もっと気軽に参加してほしい。だから、『いろいろな取っ掛けを作る』ことを心がけています。まちづくりに興味があるというだけでなく、笠寺に興味がある人や、何かやってみたいことがある人がトライする場になっている」。

活動の楽しいところは?と尋ねると、「活動そのものが楽しい。楽しくなければ続かないでしょ?という感じが」と答えてくださいました。月に1度、土曜日の午前中に開かれる定例会に集まるメンバーは20名ほど。それぞれがやってみたいことを持ち寄り、企画ごとにグループを形成。企画から運営までこなします。初めこそ定例会に参加するのは地元の人が大半でしたが、現在は商店街だけでなく南区近郊の方々が主になっているそう。住んでいるところは笠寺ではなくとも、メンバーはみんなだんだんと商店街の人とは顔なじみになっていくそう。「今では商店街の中の人としてみてくれているのかな?」と、青山さん。

「1000年続けるぞ!」

活動の目的の1つは商店街の活性化。高齢のために商店が一店、また一店と閉店していくなか、若い店主が新規開店するお店が増え、商店街が賑わえば喜ばしいこと。しかし、それがもっとも大切なことではありません。「まちづくりはずっと続けていくもの。コミュニティを維持し、社会問題を解決するために継続させることが必要だと思っています。み

んなで楽しく暮らせるまちにするために1000年続けるぞ、とみんなには言っています」と、青山さん。

「歌声きっさ」はこれまでに4度実施し、今では会場に人が入りきらないほど集まってくれるようになりました。しかし青山さんは、「目先のことで一喜一憂はしたくない」と言います。プロジェクトのリーダーとして、自らの意志で動いてくれる人が現れ、またその下でプロジェクトごとに支えてくれる人たちがいる。このように裾野が広がってきたことが今までの活動の成果だそうです。

「あったかい場所」

高齢化が進む昨今、それは笠寺でも同じことです。今まで家に閉じこもりがちだったお年寄りに「こんな楽しみができて、病院以外に行くところができてうれしい」と言ってもらえたり、「笠寺っていいところだね」「あったかいところだね」と言ってもらえることが、青山さんが笠寺の地で活動をしていてよかったなと感じることの1つです。

取材の日は笠寺音楽フェスの開催日。皆さん、準備のため少し忙しそうなお様子でした。そんな中でも「もんぜん亭」亭主の佐田さんと青山さんと地元の方々との会話からは、あたたかい雰囲気が感じられました。定例会は誰でも参加可能。実現したいことがあるという方、1度参加されてみてはいかがでしょうか?

Information

名古屋笠寺まちづくりの会 かんてらmonzen亭
名古屋南区笠寺町西ノ門53-2
TEL: 052-822-0885
E-mail: t1217@venus.dti.ne.jp
HP: <http://machiwiki.sakura.ne.jp/>
定例会は、第2土曜日9:30～12:00、
名鉄「本笠寺」駅前コーヒーパーラーミハルにて開催しています。



まちの交流スペース「もんぜん亭」の外観



かもん教室で作ったバッグや古本の書棚が置かれています



店内には亭主で画家の佐田さんの作品も展示されています



亭主の佐田さんの活動拠点は富山県。富山の物産品も購入できます